

JR連合 政策News

第240号

2013年9月26日

豊肥本線復旧現場を視察、復旧にご尽力いただいた組合員を慰問！

～今回の災害復旧工事を通じて減災ならびに防災対策における様々な知見を集積！～

JR連合及びJR九州労組は、9月25日、昨年7月の九州北部豪雨により被災し、今年8月に運転再開した豊肥本線の復旧現場を訪れ、復旧に向けて日夜ご尽力いただいた組合員の仲間を労うとともに、復旧に至るまでの経過及び課題問題点の集約を行うべく現地視察を行った。



当日は、JR連合より松岡会長、尾形政策部長、吉田教育・広報部長、JR九州労組より許斐委員長、芦原副委員長、木村総務部長が参加、宮地駅に設置された災害復旧資料館や被害を受けた施設を中心に視察を行った。

九州北部豪雨は、2012年7月11～14日にかけて発生した集中豪雨で熊本・大分・福岡県にまたがる広い範囲に被害をもたらした。このうち阿蘇市では、最多時間雨量106ミリを記録、20人を超える方がお亡くなりになったほか、鉄道・道路などのライフラインが寸断される被害が続発した。

一行は、はじめに宮地駅に設置された災害復旧資料館を訪れ、被災状況や復旧作業の様子について説明を受けた。同資料館には、被災状況や復旧作業のパネル写真に加えて、坂の上トンネルから流出したレールの一部も展示されており、被害の甚大さを物語る展示となっていた。

その後実際に被災・復旧した豊肥本線宮地・波野間の土木構造物などを視察した。今回の復旧工事では同様の災害が発生しても被災することのないような構造にするなどの工夫も見受けられた。また、阿蘇外輪山の極めて急峻な地形を這うように走行する地区で起こった災



害が故、重機搬入には困難を極めたことや、国定公園内という特殊事情下で自治体との調整に時間を要するといった復旧作業にあたっての苦労話を伺うことができた。

JR連合では、「2013交通重点政策」において、鉄道とりわけ山間線区における防災・減災の強化に資する公的支援を行政に対して求めている。特に鉄道用地外からの土砂流入が頻発し、そのために鉄道構造物が破壊するといったケースが数多く散見されることから、県を中心とした地元自治体との連携強化により防災強化を図る旨提言している。本年は山陰地域で大雨による大規模な鉄道被災が発生していることも踏まえ、今回の視察で得た知見・関係者の声を今後の政策活動に反映していく。



以 上